

利根大堰周辺における アライグマの現況と対策 (特定外来生物)



2024年7月23日(19:53~20:44)@たまり池



国土交通省 関東地方整備局

利根川上流河川事務所

利根大堰周辺でのアライグマ確認状況

※H28～R6年度モニタリング調査結果より

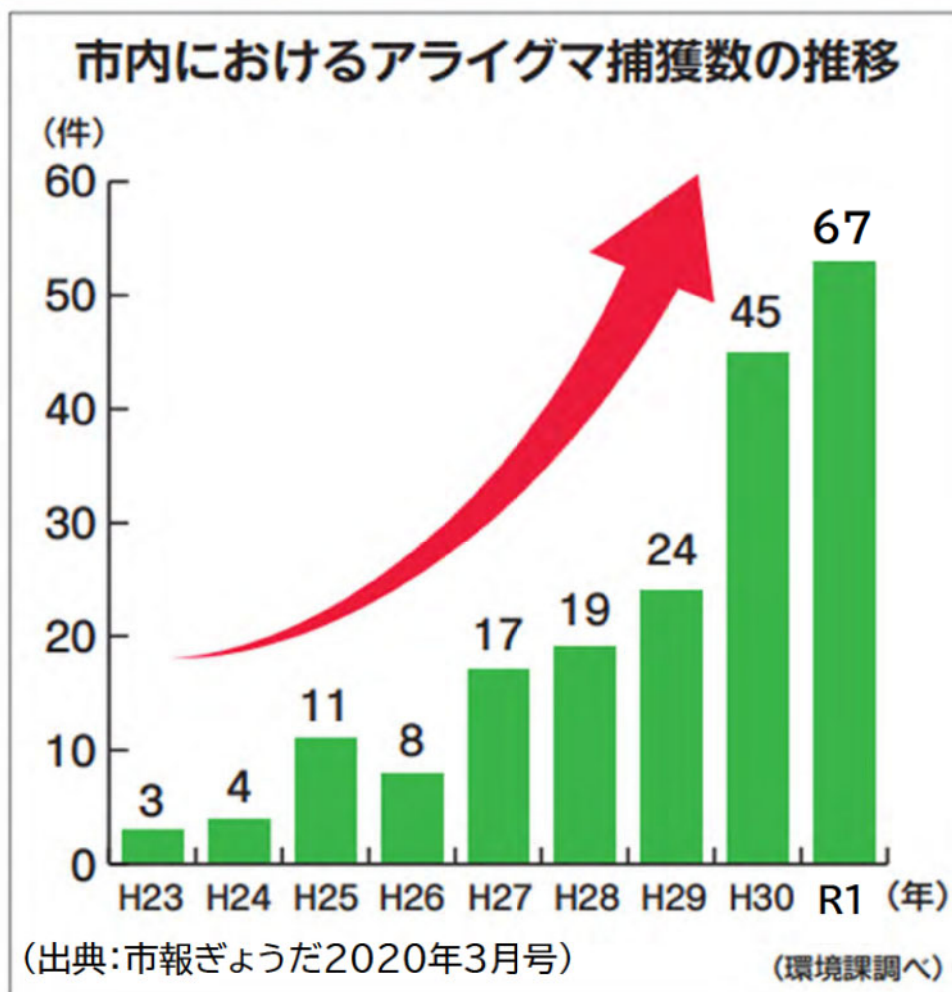
利根大堰周辺においてもアライグマの生息が確認されていたが、主に足跡で確認されていたが、近年は自動撮影カメラでとらえられることが増え、たまり池でも毎年確認されるようになっている。

●=確認 (足跡or自動撮影)	大堰上流左岸	大堰下流左岸		
		砂礫河原付近	たまり池付近	掘削完了エリア
H28(2016)	●	●		
H29(2017)	●	●		
H30(2018)	●	●	●	●
R1(2019)	●			●
R2(2020)	●	●		●
R3(2021)	●	●		●
R4(2022)	●	●		●
R5(2023)	●	●	●	●
R6(2024)	●	●	●	●



埼玉県行田市のアライグマ現況

- ・「埼玉県アライグマ防除実施計画」に基づく防除の実施
- ・捕獲器(箱わな)の貸し出し
(市職員による設置・回収)
 - ※今年度途中から業者に委託予定
- ・捕獲個体の処理
- ・情報発信・注意喚起



令和2年度:154頭

令和3年度:205頭

令和4年度:143頭

令和5年度:152頭

(出典:行田市資料等による)

群馬県千代田町のアライグマ現況

有害駆除頭数の推移

年度	R4	R5	R6
捕獲頭数	19	34	68

- 町内全域で目撃情報が増加している。
- 稲、自家消費作物の野菜全般(とうもろこし、スイカなど)で被害が出ている。
- 町民からの対策依頼に対し、捕獲対応を行っている。現在は業者に捕獲を委託している。箱わな等の貸し出しは行っていない。
- 駆除経費は、県の補助金を活用している。
- 県開催の有害鳥獣対策の担当者会議等で情報共有等を行っている。

群馬県明和町のアライグマ現況

有害駆除頭数

年度	R6
捕獲頭数	82

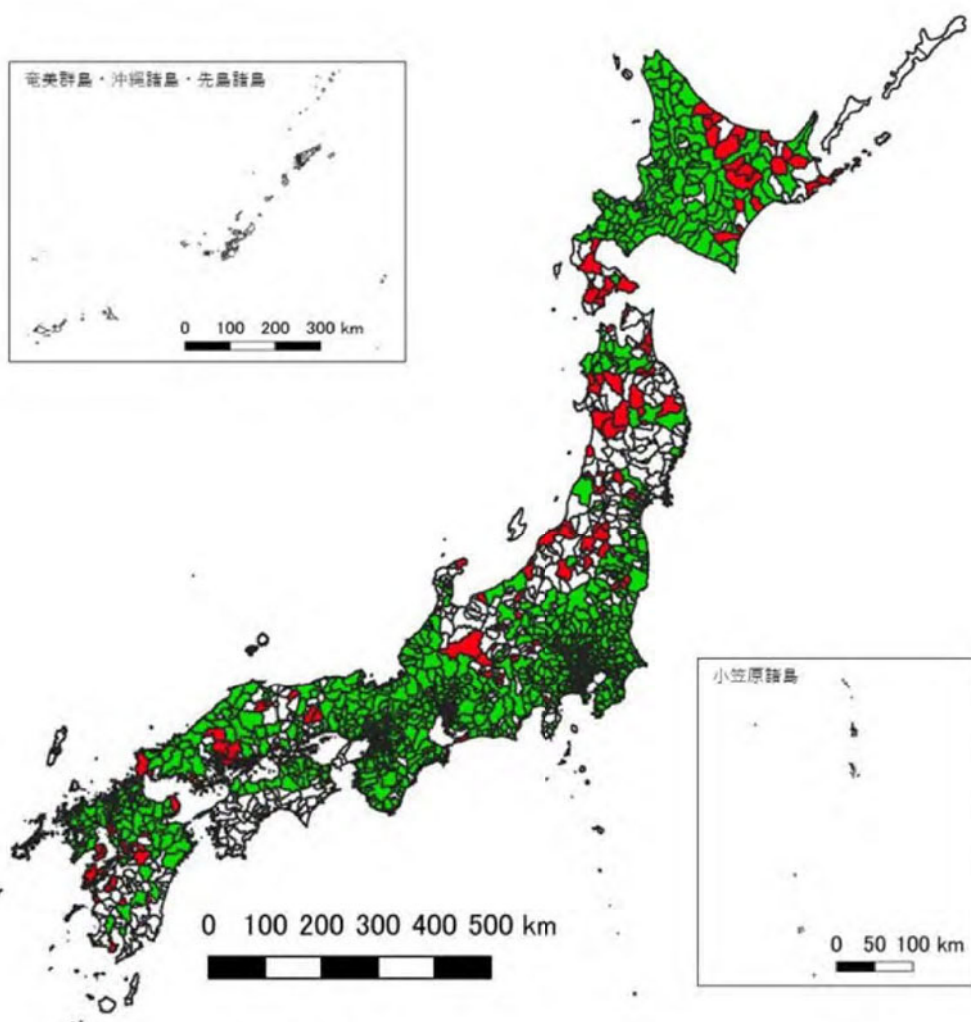
※R6年度より集計開始

- 町内全域で目撃、捕獲されている。河川沿いや野菜を作付けしている農地に多い傾向が見られる。
- 主に、スイカ、梨、ブドウ、もも、トウモロコシ、ジャガイモ等の農作物で被害が出ている。
- 地元猟友会に有害鳥獣捕獲等許可証を発行し、有害鳥獣の駆除を委託しているほか、手続き上問題が無い主体に対しても有害鳥獣駆除の許可証を発行している。
- 県補助を利用して箱わなを購入している。
- 県が開催している有害鳥獣対策担当者会議に参加している。

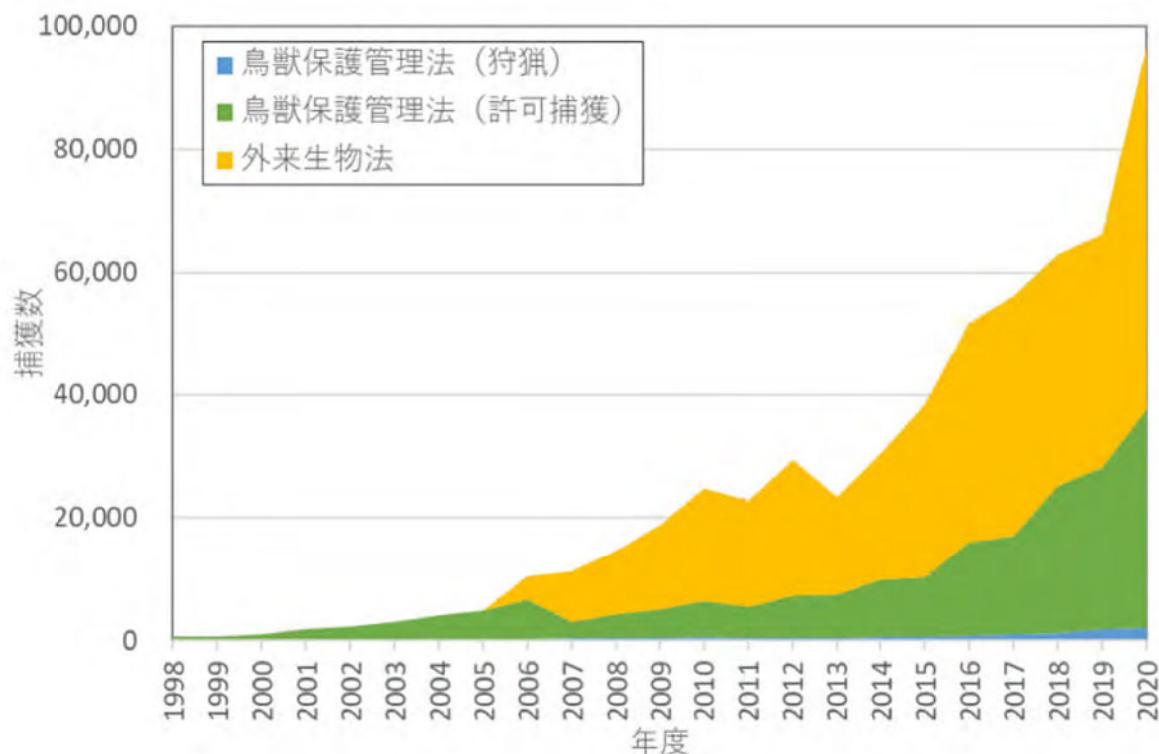
< 参考資料 >

- 全国におけるアライグマの確認・捕獲状況
- 埼玉県のアライグマ現況
- 群馬県のアライグマ現況
- アライグマによる生態系への影響
- アライグマからの保全対策実施例

全国におけるアライグマの確認・捕獲状況



■:2017(H29)年に分布が確認された市町村
 ■:2023(R5)年に新たに分布拡大が確認された市町村
 (出典:「アライグマ防除の手引き」環境省)



アライグマ捕獲数の推移(許可区分別)
 (出典:「アライグマ防除の手引き」環境省)

- 「外来生物法」施行(2005・H17年)前は、主に「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」に基づく「狩猟」と「被害防止目的の捕獲(有害鳥獣捕獲)」によってアライグマの捕獲が行われていた。
- 都道府県は防除の実施を公示することで、市町村は防除の確認を受けるか又は都道府県の公示に市町村名を明示することで、外来生物法に基づく捕獲等の防除が可能

埼玉県のアライグマ現況

(出典:「埼玉県アライグマ防除実施計画」(R4.4変更版))

■被害状況

・生態系被害

→丘陵の水辺環境が重要な餌場となっており、両生類・は虫類の生息に影響を与えており、カエル類やトウキョウサンショウウオ等への影響が指摘されている他、鳥類のヒナや卵の捕食、営巣・繁殖の妨害なども報告されている。

→生態が似ているタヌキ等、中型哺乳類への影響も懸念されている。

・農作物被害

→個体数が急増した平成18年度に発生範囲・件数が拡大

→被害は、野菜76%、果樹18%

表 アライグマに寄る農作物被害金額の推移(単位:万円)

令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
2136	2603	2347	1917	2289

埼玉県における鳥獣による農作物被害額(8168万円)のうち、約28%をアライグマが占めている。(R5年度)

■対策実施状況

『埼玉県アライグマ防除実施計画』に基づく防除の推進

(※外来生物法に基づく計画)

- ・策定 平成19年3月策定(※直近の更新は令和4年4月)
- ・対象 アライグマ(カニクイアライグマ(未定着)含む)
- ・区域 埼玉県全域
- ・期間 令和4年4月1日～令和13年3月31日 ※第4次計画期間
- ・目標 最終目標は、野外におけるアライグマの完全排除だが、短期間達成が困難であるため、段階的な防除策として、関係機関連携による化学的知見を踏まえた効果的な防除実施による、農業・生活環境・生態系に係る被害を抑制することを当面の目標とする。
- ・県の取組
 - ・広域的な防除実施計画の策定と計画の見直し・変更
 - ・市町村が行う防除の技術的支援、実施体制整備等の支援
 - ・「アライグマ捕獲等従事者研修会」の開催による捕獲従事者の養成
 - ・生息状況や捕獲情報等科学的データ集積と市町村へのフィードバック

・防除対策のゾーン区分

捕獲地点とアライグマが好む周辺環境との関係性から生息ポテンシャルマップ(次頁図)を作成し、ポテンシャルの大きさから3つのゾーンに区分している。

※利根大堰周辺は「重点対策ゾーン」。

ゾーン区分	対象地域	対象市町村
ア 最重点対策ゾーン	a 西部地域	川越市、所沢市、飯能市、東松山市、狭山市、入間市、朝霞市、志木市、和光市、新座市、富士見市、坂戸市、鶴ヶ島市、日高市、ふじみ野市、三芳町、毛呂山町、越生町、滑川町、嵐山町、小川町、川島町、吉見町、鳩山町、ときがわ町、東秩父村
	b 北部地域の南部	寄居町、熊谷市一部、深谷市一部
イ 重点対策ゾーン	a 中央地域	さいたま市、川口市、鴻巣市、上尾市、蕨市、戸田市、桶川市、北本市、伊奈町
	b 秩父地域の中央部及び東部	横瀬町、皆野町、長瀬町、秩父市一部、小鹿野町一部
	c ア以外の北部地域	本庄市、美里町、神川町、上里町、熊谷市一部、深谷市一部
	d 東部地域の北部及び西部	行田市、蓮田市、加須市一部、羽生市一部、久喜市一部
ウ 定着警戒ゾーン	ア、イ以外の地域	春日部市、草加市、越谷市、八潮市、三郷市、幸手市、吉川市、白岡市、宮代町、杉戸町、松伏町、秩父市一部、加須市一部、羽生市一部、久喜市一部、小鹿野町一部

※ 市町村によっては複数のゾーン区分に該当する場合がある。その場合は市町村の判断により各区域の状況に応じた防除を実施する。

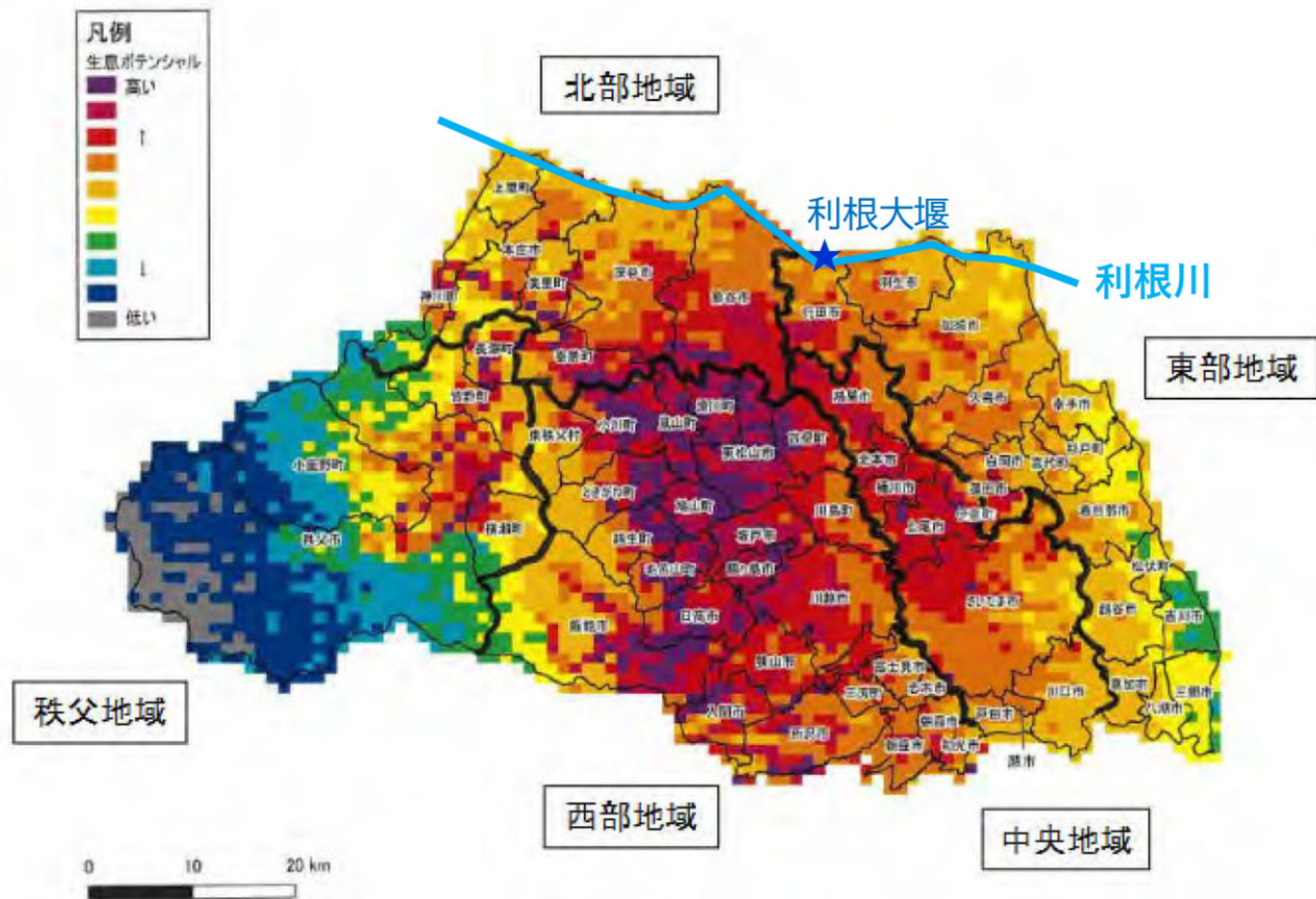


図.令和2年度の生息ポテンシャルマップ(埼玉県)

■捕獲状況

63市町中62市町で捕獲されている。

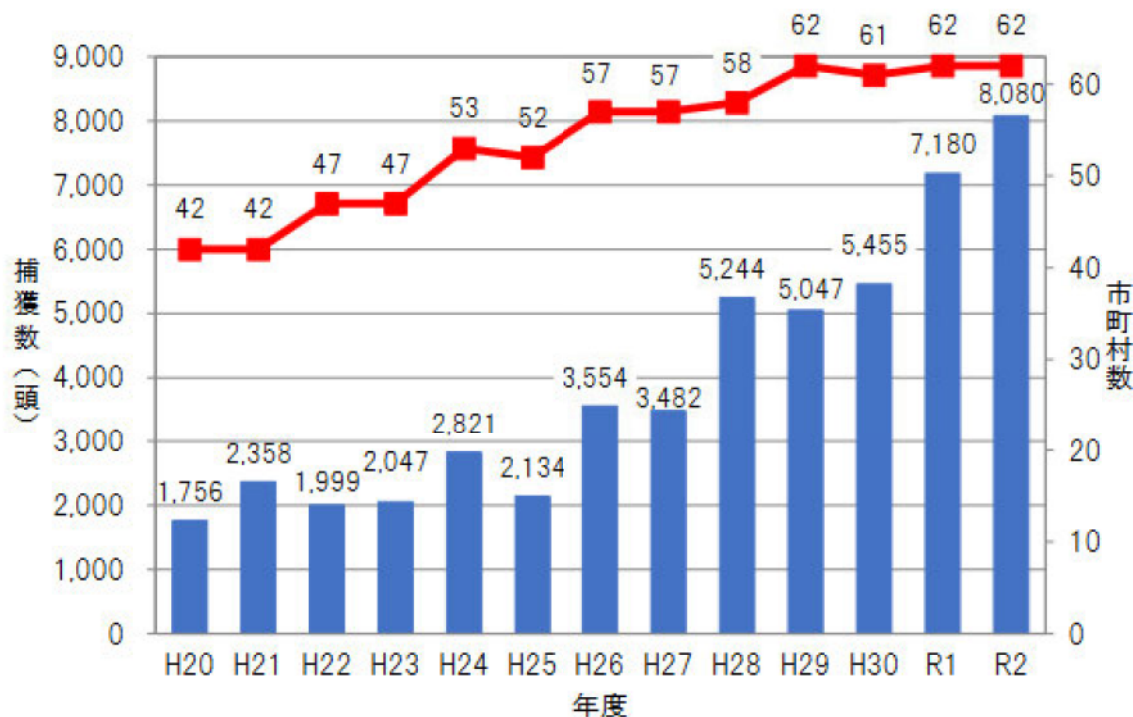


図. 県全体の捕獲数と捕獲市町数

令和4年度:1万515頭

令和5年度:1万1790頭

西部地域での増加が著しく、北部地域(利根川沿い地域)でも近年増加傾向にある。

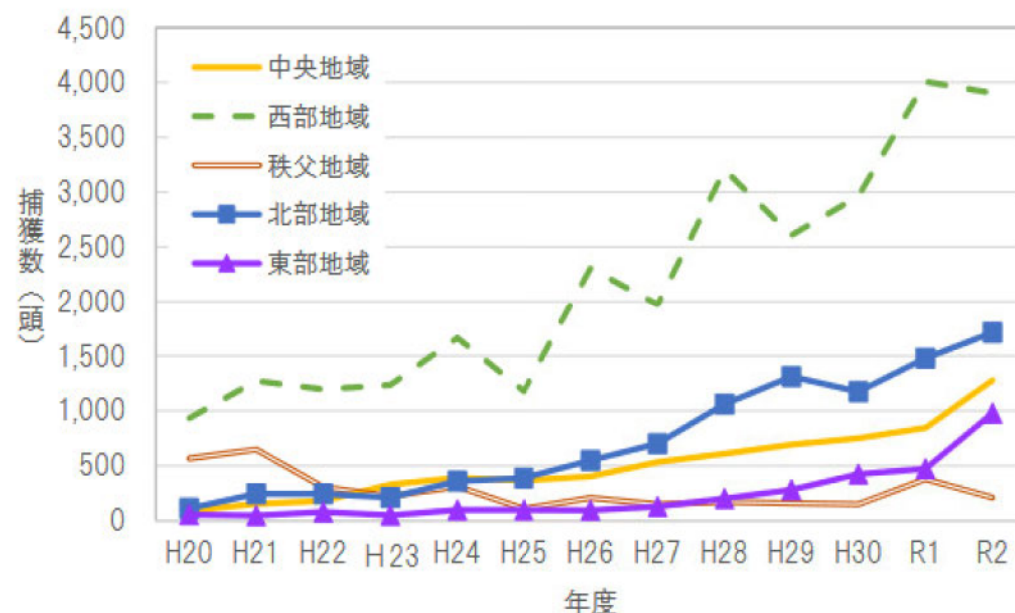
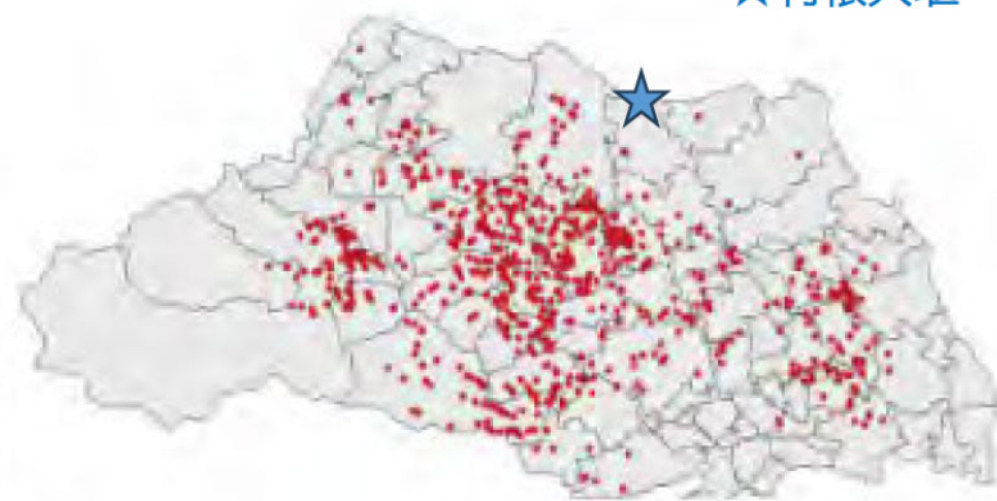


図. 地域ごとの捕獲数

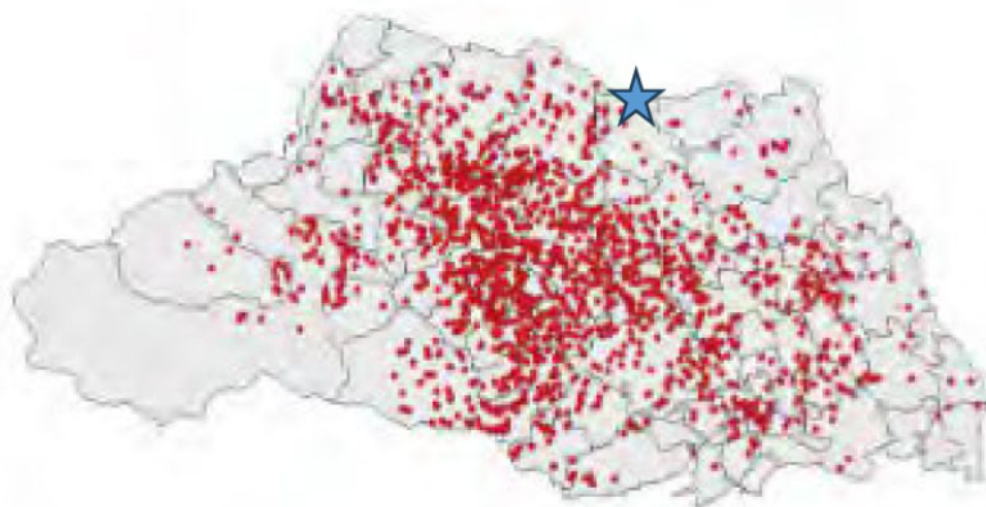
★利根大堰



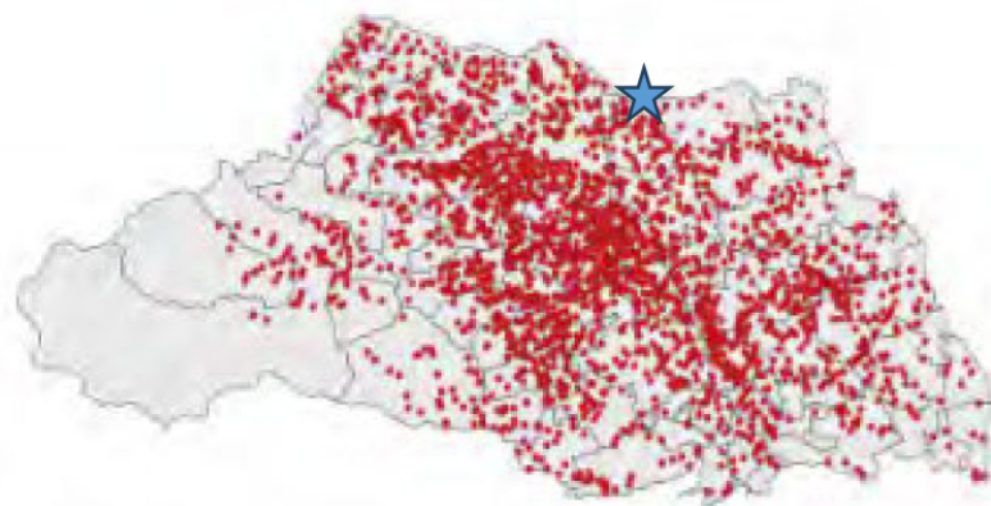
平成19年度



平成23年度



平成28年度

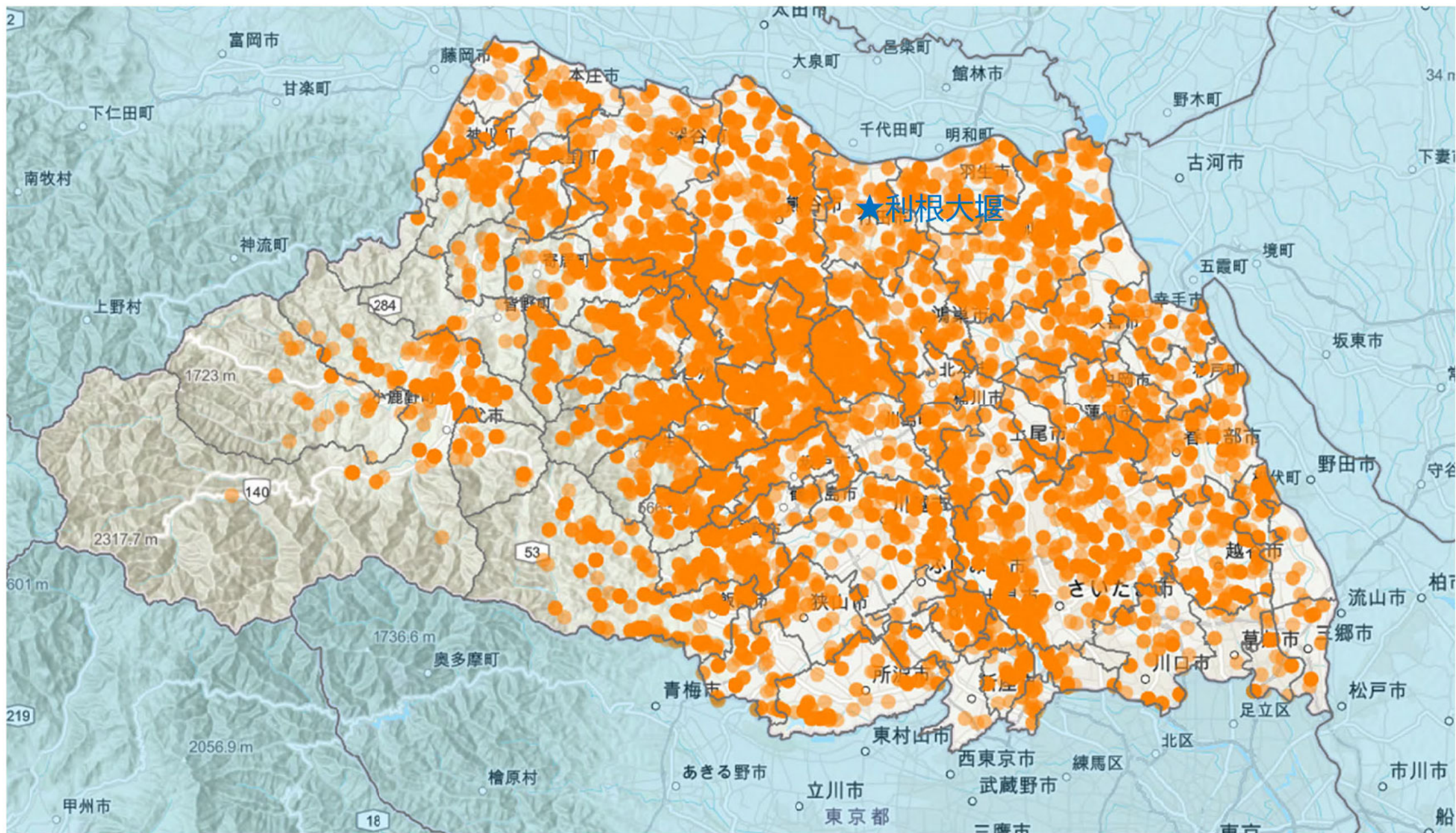


令和2年度

図. アライグマの捕獲地点の変遷

(出典:「埼玉県アライグマ防除実施計画」(R4.4変更版))

埼玉県アライグマ捕獲地点マップ(2023(R5)年度)



●:捕獲地点(色が濃いほど多い)

(出典:「埼玉県アライグマ防除実施計画」(R4.4変更版) 14

群馬県のアライグマ現況

■被害状況

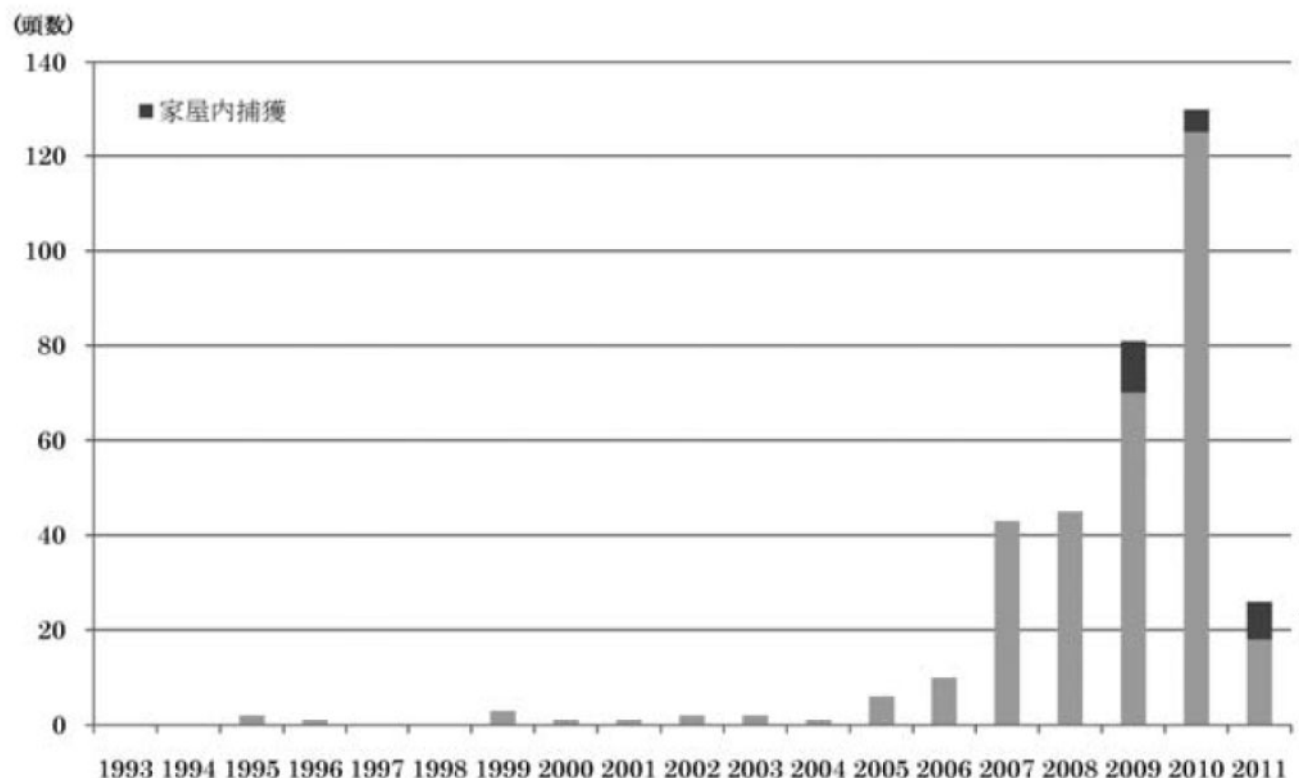
表 アライグマに寄る農作物被害金額の推移(単位:万円)

令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
119	298	345	413	474

群馬県における鳥獣による農作物への被害額(3億2255万円)のうち、シカ40%、クマ16%、イノシシ14%と3獣種で7割を占めており、アライグマは1.4%。(R5年度)

■捕獲状況

図 捕獲頭数の推移
(~2011.8)



(出典:「群馬県におけるアライグマの生息状況と食性」群馬県立自然史博物館研究報告No.16・姉崎他)

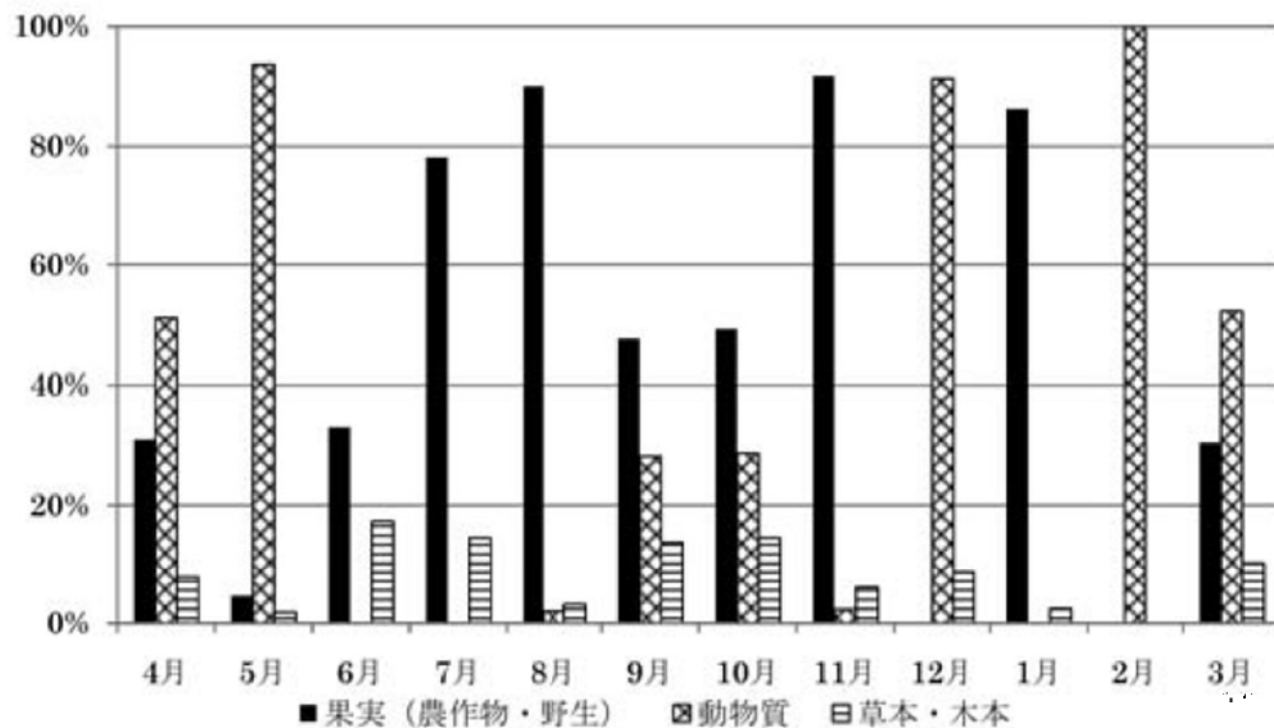
■対策実施状況

群馬県・鳥獣害対策地域支援事業

	助成事業		実施主体	補助率
1	捕獲推進（捕獲に係る人件費等）		市町村	補助率4分の1以内
2	捕獲機材等導入（わな、オリ等）		市町村	補助率4分の1以内
3	個体群管理推進	（追払い資材等）	市町村 農林漁業者等団体	補助率2分の1以内
		（調査機材等）		補助率4分の1以内
4	捕獲奨励 （捕獲頭数に応じた奨励金）		市町村、地域協議会	補助率 定額 （アライグマ： 2千円/頭以内）
5	電気柵適切管理推進 （防草シート等）		市町村 農林漁業者等団体	補助率2分の1以内
6	緩衝帯整備		市町村、地域協議会	補助率2分の1以内

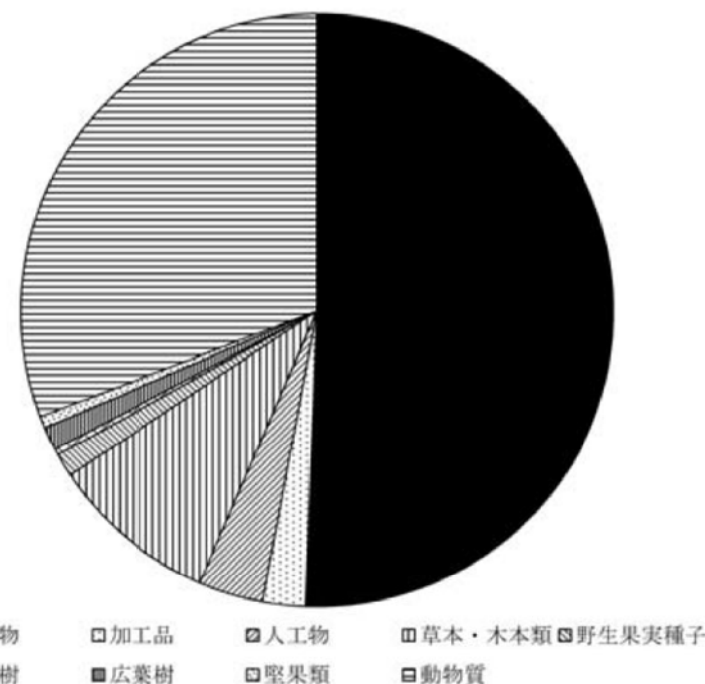
（出典：「令和6年度鳥獣害対策地域支援事業(県単)の概要」群馬県ホームページ）

■捕獲したアライグマの胃内容物



月ごとの胃内容物割合

農作物はほぼ通年確認され、動物質は春季と冬季に多く確認された。



アライグマの胃内容物の割合

食性では農作物が5割以上(主に果樹)を占め、次いで動物質(甲殻類・両生類など水生動物が多い)が多く占められ、水生生物を中心とした生態系への影響が懸念されている。

アライグマによる生態系への影響

カエルやサンショウウオの仲間などの両生類、カメなどのは虫類、淡水貝、鳥類のヒナなどの捕食が報告されており、繁殖地が限られている両生類やは虫類に対し、地域個体群の存続にかかわる影響をおよぼす可能性も指摘されている。

(出典:「アライグマ防除の手引き」環境省)



カエル類は成体だけでなく卵塊も食べていることが確認されており、 の卵塊が多い水辺ほどアライグマが多く出現するという研究報告や、アライグマの捕獲を継続的に実施した結果、ヤマアカガエルの卵塊数が増加したという報告(横浜自然観察の森)もあり、アライグマによる捕食圧の影響が推測されている。

←自動撮影カメラで撮影された、実際にアライグマが の卵塊を食べている様子

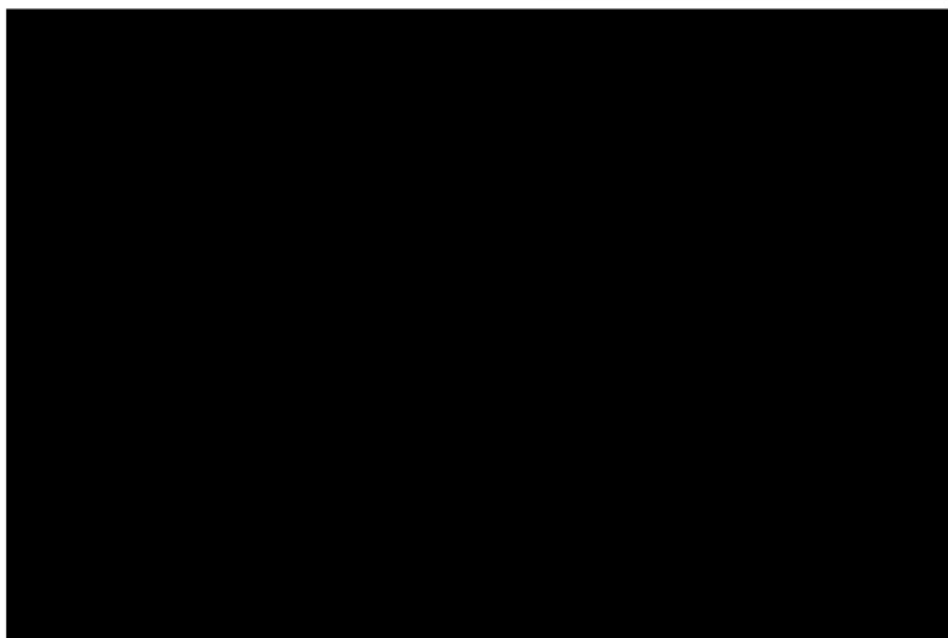
卵塊の保全対策

-埼玉県自然学習センターの取組例-

北本自然観察公園(※)では、園内にある埼玉県自然学習センターが主体となって、埼玉県で絶滅危惧種となっている[]の卵塊数のカウント調査を2007年から継続して実施し、個体数の把握に努めているが、2011年に過去最多([])を記録した以降、年々減少し、2024年は過去最少([])となった。(※次ページグラフ参照)

保護対策として、アライグマの捕獲、水辺環境づくり、日常的な見守り等が行われてきたが、卵塊をアライグマなどによる捕食から守るための直接的な対策として、見つかった全ての卵塊の上にカゴを設置する方法も2024年から開始したところ、2025年の卵塊数が大幅に増加([])した。多くの卵塊や個体が捕食をまぬがれて成体(カエル)となり、繁殖を行ったためと考えられている。

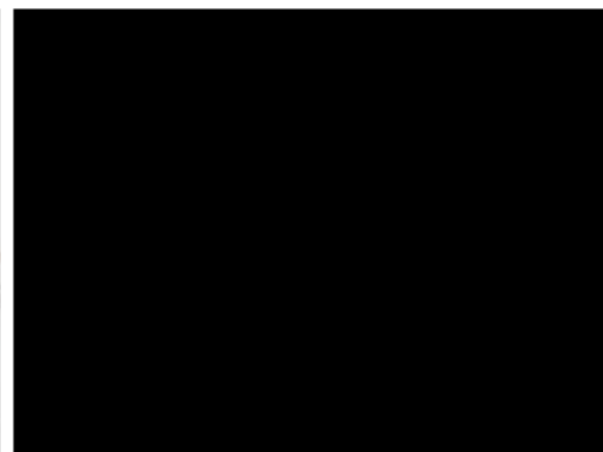
※北本自然観察公園・埼玉県自然学習センター：埼玉県北本市内にある埼玉県営の自然ふれあい施設。



今年度の対策実施状況



買い物かごを活用した保護

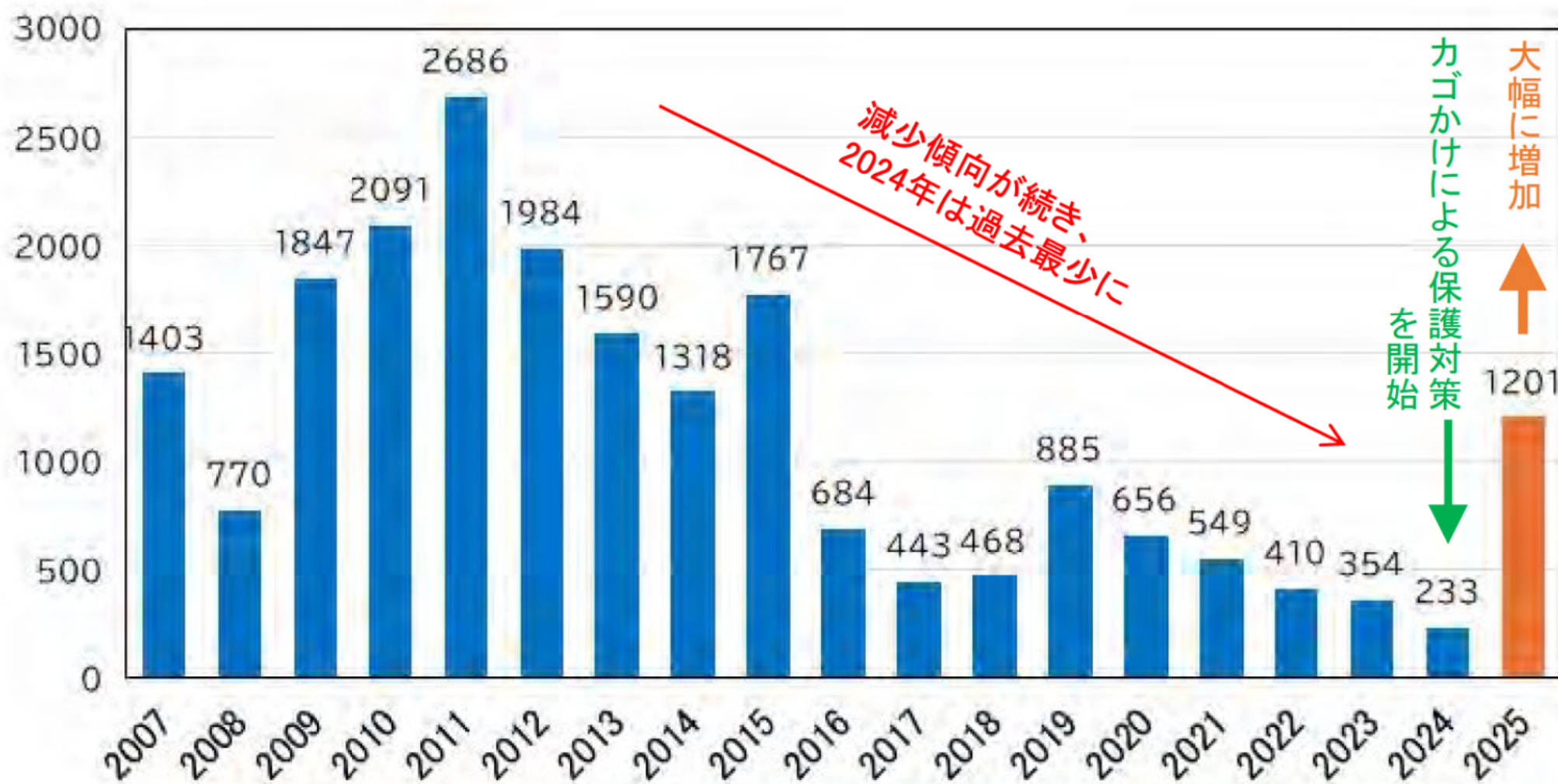


自作したカゴでの保護

写真・データ提供：埼玉県自然学習センター

北本自然観察公園内の[REDACTED]卵塊数の推移 (2007年～2025年)

(卵塊数)



写真・データ提供: 埼玉県自然学習センター